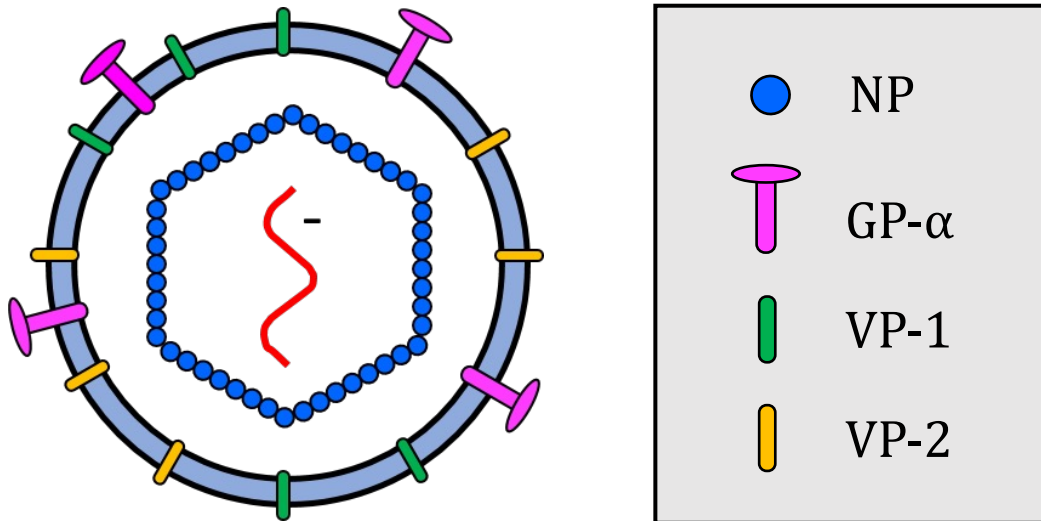


Arkham parainfluenza virus



分類

Arkham parainfluenza virus はラブドウイルス科リッサウイルス属に分類され、エンベロープを持つ(-)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

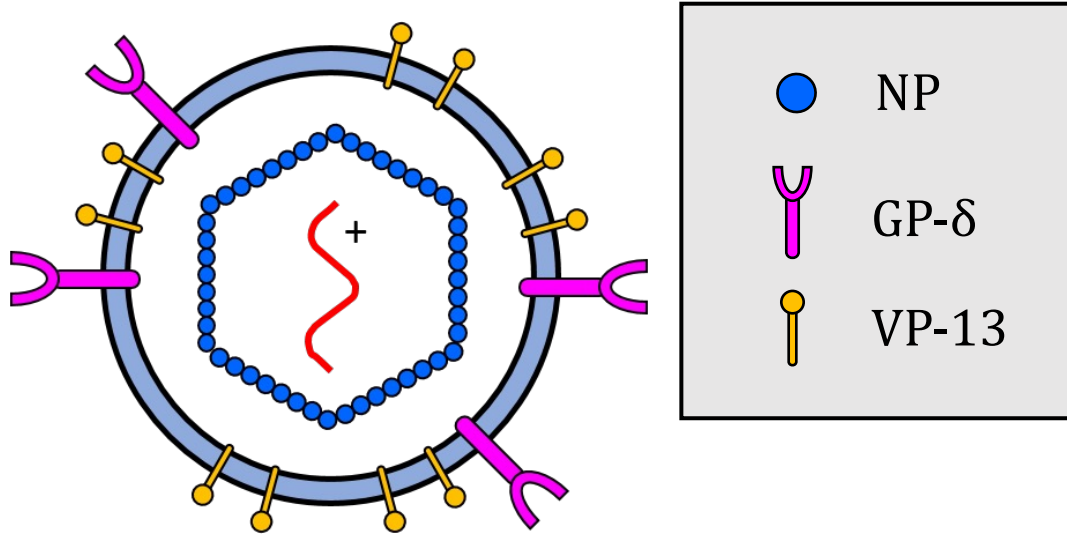
本種は1939年、マサチューセッツ州ミスカトニック川流域のアーカムで発生した集団神経症の病原体として分離された。ネズミ等の小型哺乳類によって媒介される。

病原性

感染初期には咳、発熱、悪寒等の風邪に類似した症状がみられる。感染者の約90%はここで治癒するが、一部はパラノイアをはじめとした重篤な神経症状を呈するようになる。

本種によってアーカムの住人たちは疑心暗鬼に陥り、いくつかの凄惨な事件が引き起こされた。現代における本種の流行はそれ以上の危機的事態を招くと考えられ、徹底した監視が必要である。

Septemtrionis tussisvirus



分類

Septemtrionis tussisvirus はコロナウイルス科ペダコウイルス亜属に分類され、エンベロープを持つ(+)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

本種は2101年、ロシア連邦（旧ソビエト）のノヴォシビルスク州コルトソボで未知のウイルスとして分離された。当初ヒトへ感染することはないとされていたが、1983年に同国のクラスノヤルスク周辺で呼吸器感染症のエピデミックが発生し、その病原体として特定された。

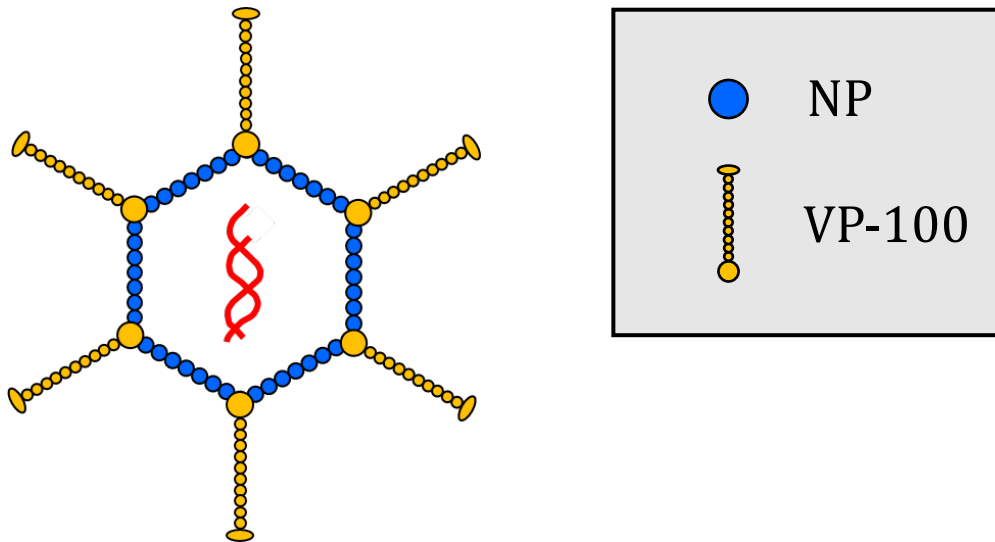
ヘラジカを自然宿主とするウイルスが進化してヒトに感染するようになったと考えられている。

病原性

感染後、3-11日の潜伏期間を経て軽度の風邪様症状を引き起こす。その後症状は軽快するが、感染者の15%程に急性呼吸窮迫症候群(ARDS)等の重篤な呼吸器症状がみられる。

このことは本種が肺組織に定着しやすく、高度な免疫回避システムを有していることが関連している。

Iecoris parvus diabolusvirus



分類

Iecoris parvus diabolusvirus はヘパドナウイルス科オルトヘパドナウイルス属に分類され、エンベロープを持つDNAウイルスである。DNAは完全な二本鎖ではなく(+)鎖の一部が欠損し短い構造をしている。

疫学

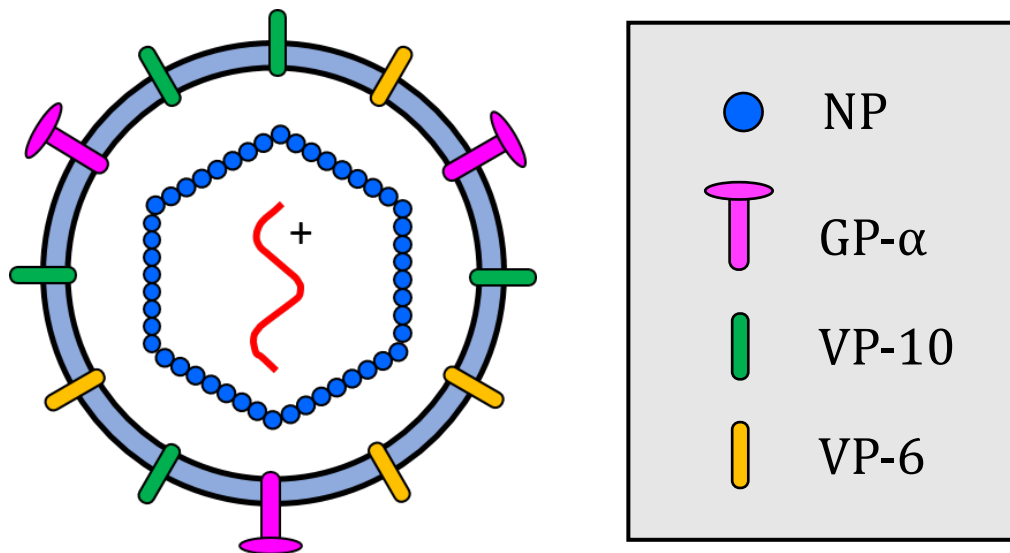
1873年にドイツのバート・メルгентハイムで発見された新型肝炎の原因ウイルスである。感染者の血液、精液等の体液を介して感染する。

病原性

感染初期には自覚症状がみられない。しかし感染が進行すると黄疸等の症状が現れ、肝硬変を引き起こし最終的には死に至る。

また肝臓がんの原因でもあり、感染初期であっても腫瘍の発生を引き起こす可能性が指摘されている。

Proiciamus mundivirus



分類

Proiciamus mundivirus はフラビウイルス科ヘパシウイルス属に分類され、エンベロープを持つ(+)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

本種は20世紀初頭、西ローデシアの白人入植者の間で流行した原因不明の熱病の原因とされている。

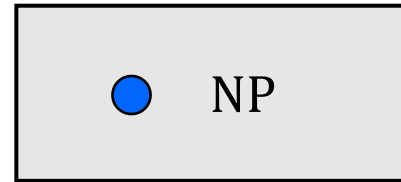
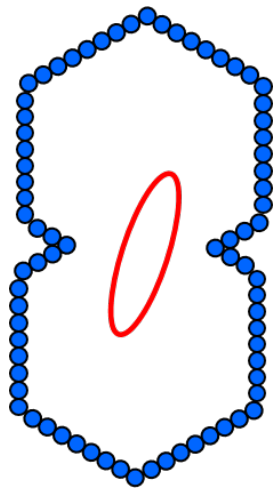
本種は主にコウモリによって媒介される。当時、現地の住民は本種に対する抗体を獲得していたが、抗体を持っていなかった白人入植者の間で感染が拡大した。

病原性

3-9日の潜伏期間を経て発症し、40℃以上の高熱や悪寒等の症状が2週間程度続く。感染者の約5%にウイルス性脳炎の症状がみられる。

一度脳炎を起こした後、感染者が治癒した事例はなく、数時間から数日で確実に死に至る。

Virgavirus



分類

Virgavirus はヘペウイルス科トバモウイルス属に分類され、エンベロープを持たない(+)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

本種は種の壁を越えて被子植物全般に感染し、病原性を示す。細胞壁の欠陥から侵入することで感染するため、汚染された水や植物同士の接触によって容易に感染が拡大する。

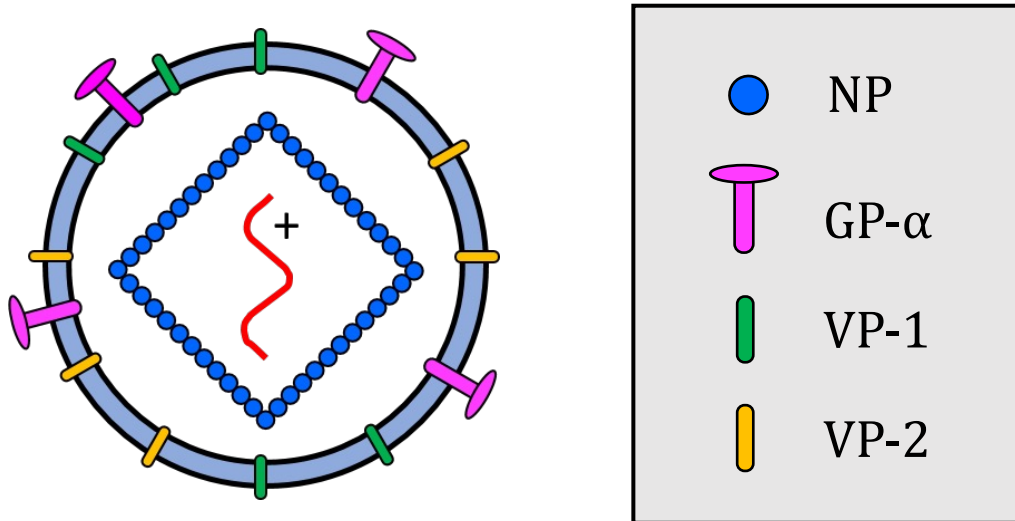
病原性

本種は植物の生育サイクルに合わせて、その振る舞いを巧妙に制御する。

生育期にはほとんど病原性を示さず、その間に周囲一帯に感染が拡大することが多い。植物が成熟期に入ると病原性を発現し、細胞の壊死や萎縮を引き起こす。

第一次産業に甚大な被害を引き起こすため、生物兵器としての使用が懸念される。

Celaredubiumvirus



分類

Celaredubiumvirus はニューモウイルス科オルトニューモウイルス属に分類され、エンベロープを有する(+)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

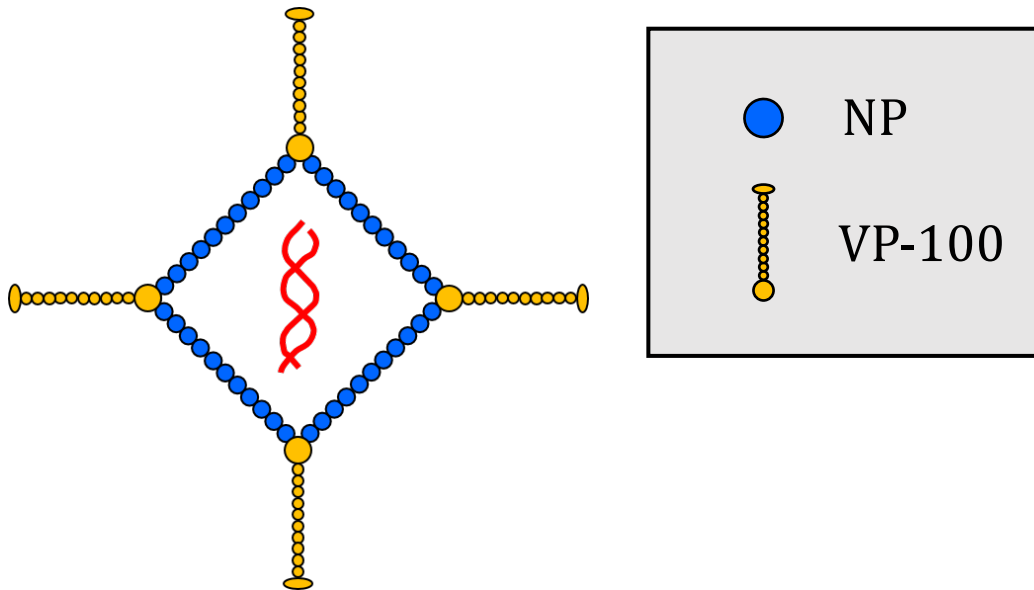
本種は2002年、中米コスタリカで熱帯性のクモ類から分離された。中米で発生している原因不明の睡眠病の流行域が、本種の検出域と有意に一致することから、本種とこの睡眠病との間に深い関連があることが示唆されている。

しかし、本種がヒトをはじめとする脊椎動物種から分離されたことはない。この事実は本種が既知のウイルスとは根本的に異なる方法で、生物への病原性を発現しているという強い懸念に繋がっている。

病原性

本種が自然宿主であるクモ類に病原性を示すことはない。ヒトやその他の脊椎動物への病原性は不明である。

Chilometrum quadratumvirus



分類

*Chilometrum quadratumvirus*はビルナウイルス科アクアビルナウイルス属に分類され，エンベロープを持たない二本鎖RNAウイルスである．

疫学

本種は1829年にギリシャで発生した，水生生物の大量死の原因として，環境中から分離された．

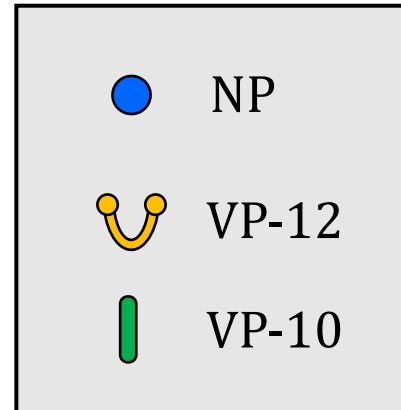
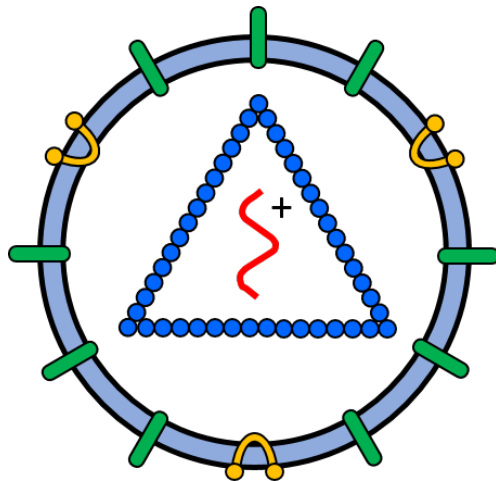
本種がヒトへ感染することはない．しかし，環境に甚大な被害を与えるため，懸念すべき病原体であることは疑いようがない．また，本種は一般的な緑藻類によって媒介されるため，感染経路の遮断が非常に困難であることも指摘されている．

本種と遺伝子的な相同性を有するウイルスが，ボリビアのチチカカ湖から検出されている．ここから20世紀に船によってユーラシア大陸へ進出したと考えられている．

病原性

本種は様々な系統の水生生物群の血球細胞に侵入し，溶血に伴う致死的な症状を引き起こす．

Angusvirus



分類

Arkham paranovirus はラブドウイルス科リッサウイルス属に分類され、エンベロープを持つ(+)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

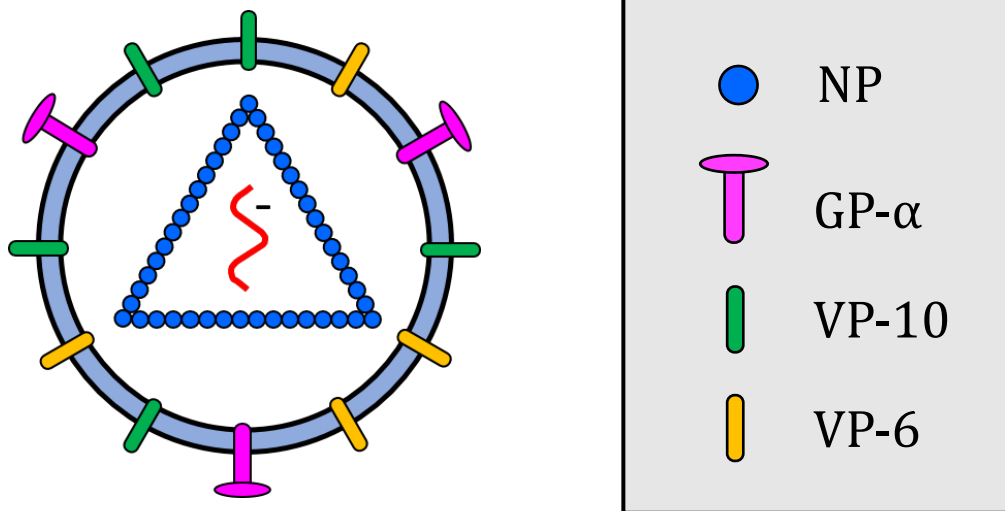
本種は2135年、マサチューセッツ州ミスカトニック川流域のアーカムで発生した集団神経症の病原体として分離された。ネズミ等の小型哺乳類によって媒介される。

病原性

感染初期には咳、発熱、悪寒等の風邪に類似した症状がみられる。感染者の約90%はここで治癒するが、一部はパラノイアをはじめとした重篤な神経症状を呈するようになる。

本種によってアーカムの住人たちは疑心暗鬼に陥り、いくつかの凄惨な事件が引き起こされた。現代における本種の流行はそれ以上の危機的事態を招くと考えられ、徹底した監視が必要である。

Pulchra patriavirus



分類

Pulchra patriavirus はビャワポドラスカ科トウラウイルス属に分類され、エンベロープを持つ(-)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

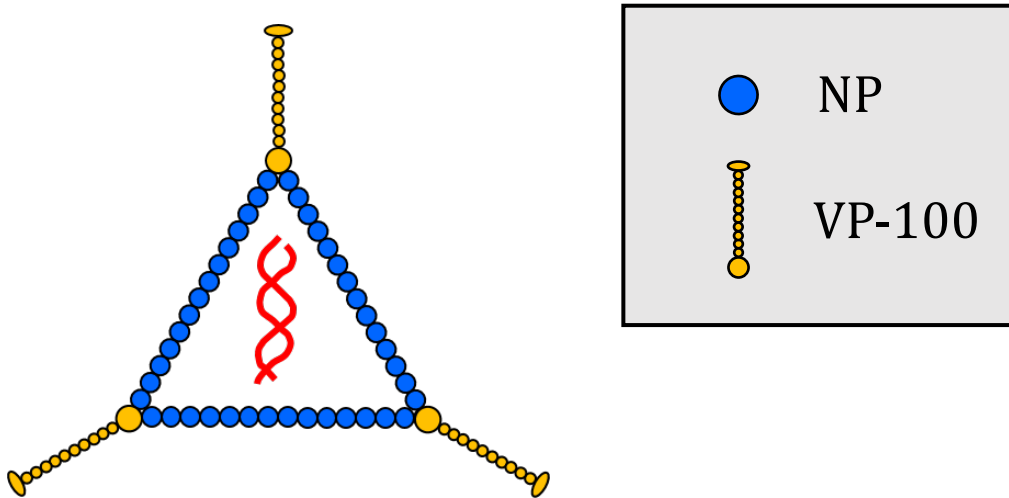
本種は血液や粘膜を介して感染すると考えられている。

本種は、19世紀、プロイセンのザクセン=アンハルト州で若年層の間で流行した心臓疾患の原因として初めて発見されたと考えられてきた。しかし現在ではこの疾患は恋愛に起因するものであったことが判明している。

病原性

感染者の90%は無症状で、発病しても動悸や発熱などの軽微を呈するのみである。しかし、感染者の約10%が恋人を求めるという不可解な傾向があり、本種がヒトの脳機能になんらかの影響を及ぼしている可能性が指摘されている。

Quantunia quantungvirus



分類

*Quantunia quantungvirus*はミミウイルス科ミミウイルス属に分類され，エンベロープを持たない二本鎖RNAウイルスである．

疫学

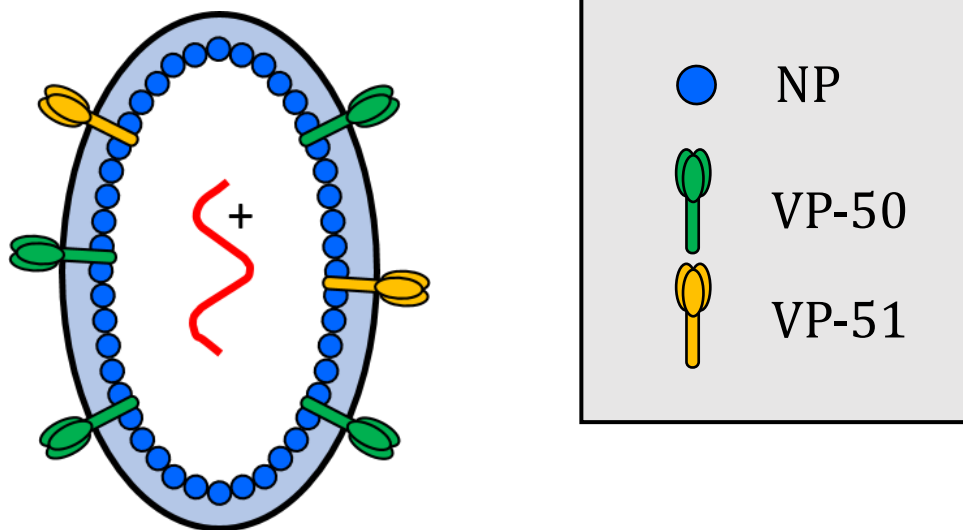
本種は1949年に中国広東省で発見された．空気感染することもあるが，主な感染経路は接触感染である．基本再生産数は小さく爆発的な感染拡大は起こさないと考えられている．

本種がヒト及び環境に特筆すべき影響力を有するとは考え難いにもかかわらず，国連によって本種の調査研究及び保有は厳しく制限されている．

病原性

感染者は咳，発熱などの一般的な風邪様症状を呈する．ほとんどの場合，発症後5日程で軽快するが，ごく稀に重症化し肺炎，脳炎等を引き起こすことがある．

Variant artusvirus



分類

*Variant artusvirus*はレトロウイルス科レンチウイルス属に分類され、エンベロープを持つ(+)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

本種は2135年にイギリスのロンドンで発見された。骨変形性四肢変形症の原因ウイルスと考えられている。感染者との性交渉等、粘膜の接触によって感染する。

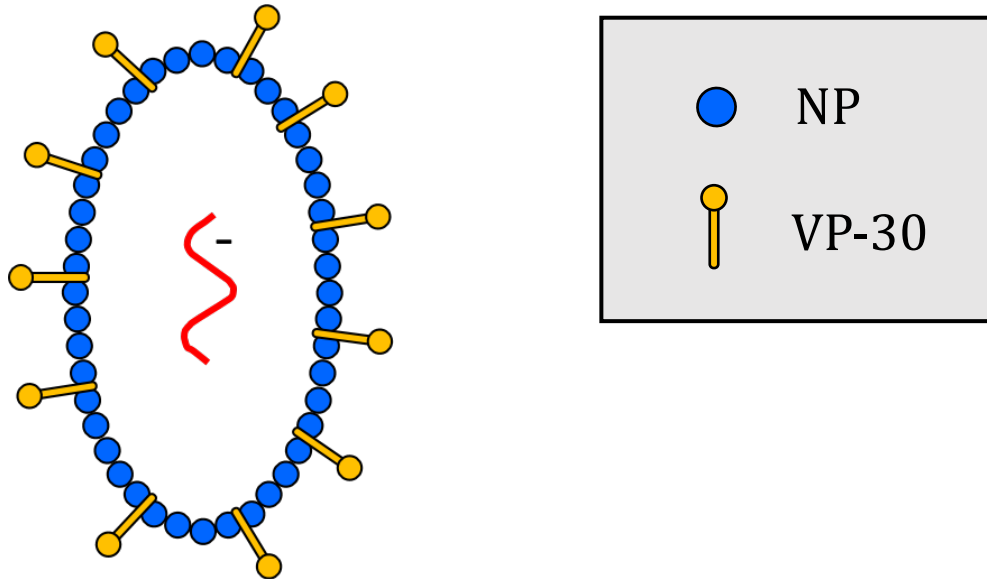
病原性

感染初期には手足の関節の痛み等の症状が出る。症状が進行するにつれて、歩くことや物を握ることが困難となる。

本種は免疫系統を攪乱し、結果として関節の骨細胞に対する免疫細胞の異常な自己応答が引き起こされる。これによって関節の変形が生じる。

性交渉を通じて、ロンドンの若年層の間で爆発的な感染拡大が起こった。

Cordis diabolusvirus



分類

*Cordis diabolusvirus*はパラミクソウイルス科オルトニューモウイルス属に分類され、エンベロープを持たない(-)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

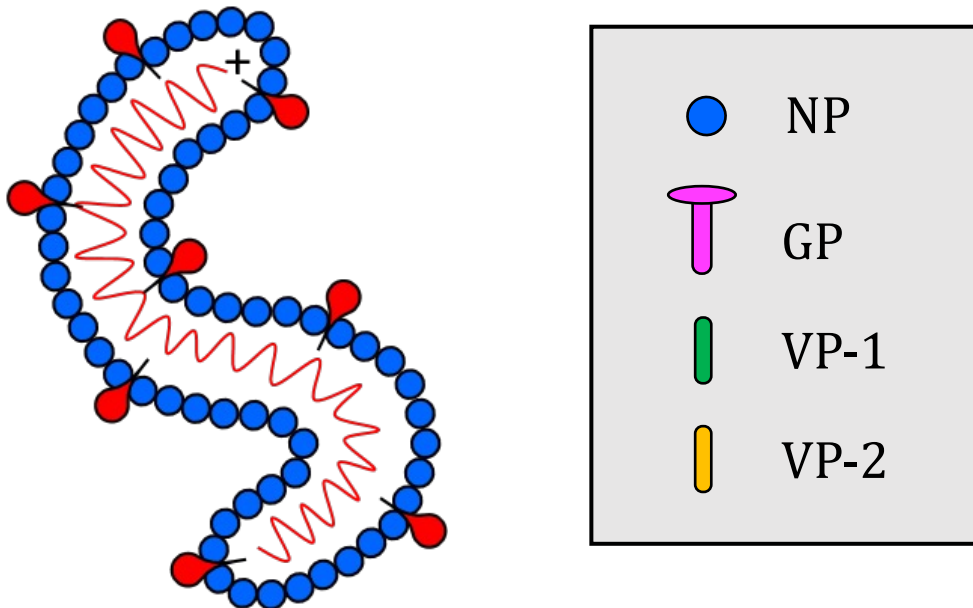
本種は1899年にリビア，スーダン，エジプトを中心としたサハラ砂漠北東部の地域で発見された，多くの心臓病の要因となるウイルスである。

飛沫によって感染が広がり，空気感染する可能性も指摘されている。

病原性

本種は主として心筋を侵す．感染初期には動悸，息切れなどの症状が現れる．症状が進行すると心肥大や心筋梗塞などの重篤な病態を示し，有効な治療が行われないと死に至る。

Opulentum insaniavirus



分類

*Opulentum insaniavirus*はフラビウイルス科フラビウイルス属に分類され、エンベロープを持たない(+)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

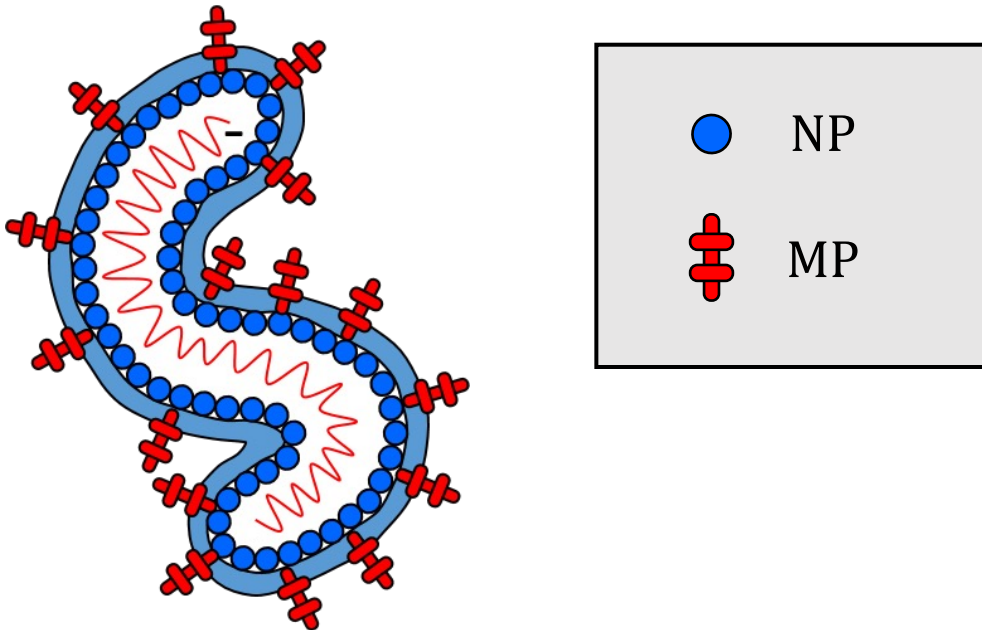
本種は2085年にアマゾン川流域の都市ベレンで流行した精神病の病原体として分離された。当時の感染域の拡大状況から、ヒト-ヒト間の空気感染をするという懸念がある。

病原性

感染初期には酷い頭痛や倦怠感などの症状がみられる。感染が進行するにつれて患者の精神に影響が現れ、多くの患者で躁鬱の症状を呈する。

本種によってベレン全体で経済が混乱し、一時はベレンの経済が破綻し壊滅的な状態となった。

Statio ferriviariavirus



分類

Statio ferriviariavirus はフィロウイルス科マールブルグウイルス属に分類され、エンベロープを持つ(-)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

本種は1830年、イギリスのマンチェスター地方で発見された。

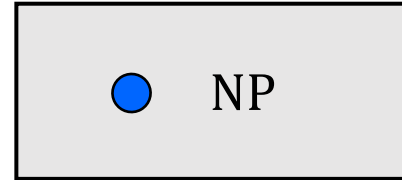
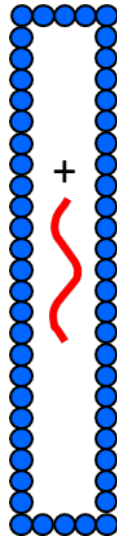
ヒト-ヒト間で容易に感染が成立し、特に人口密集地で感染が拡大しやすい。ごく稀に馬や牛等の家畜にも感染する。

20世紀初頭に中国において本種を海外勢力が国内で広めているという噂が広がり、双十革命につながった。

病原性

潜伏期間は1年程度と長い。個人差が大きい。軟骨細胞に侵入して、関節痛を引き起こす。約5%の患者は劇症型の組織溶解を起こし、耐え難い激痛によって死に至る。

Virgavirus



分類

Virgavirus はヘペウイルス科トバモウイルス属に分類され、エンベロープを持たない(+)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

本種は種の壁を越えて被子植物全般に感染し、病原性を示す。細胞壁の欠陥から侵入することで感染するため、汚染された水や植物同士の接触によって容易に感染が拡大する。

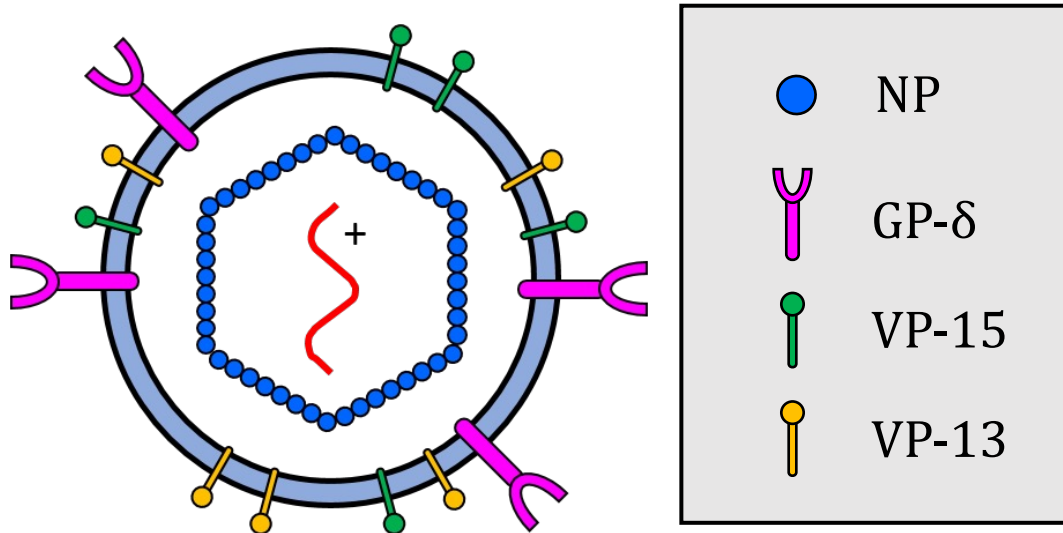
病原性

本種は植物の生育サイクルに合わせて、その振る舞いを巧妙に制御する。

生育期にはほとんど病原性を示さず、その間に周囲一帯に感染が拡大することが多い。植物が成熟期に入ると病原性を発現し、細胞の壊死や萎縮を引き起こす。

第一次産業に甚大な被害を引き起こすため、生物兵器としての使用が懸念される。

Otiosum pulmonisvirus



分類

*Otiosum pulmonisvirus*はコロナウイルス科ベータコロナウイルス属に分類され、エンベロープを有する(+)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

本種は1984年にインドネシアのスラウェシ島で発見された呼吸器不全を引き起こすウイルスである。感染力が非常に強く、ヒト-ヒト間での空気感染が確認されている。

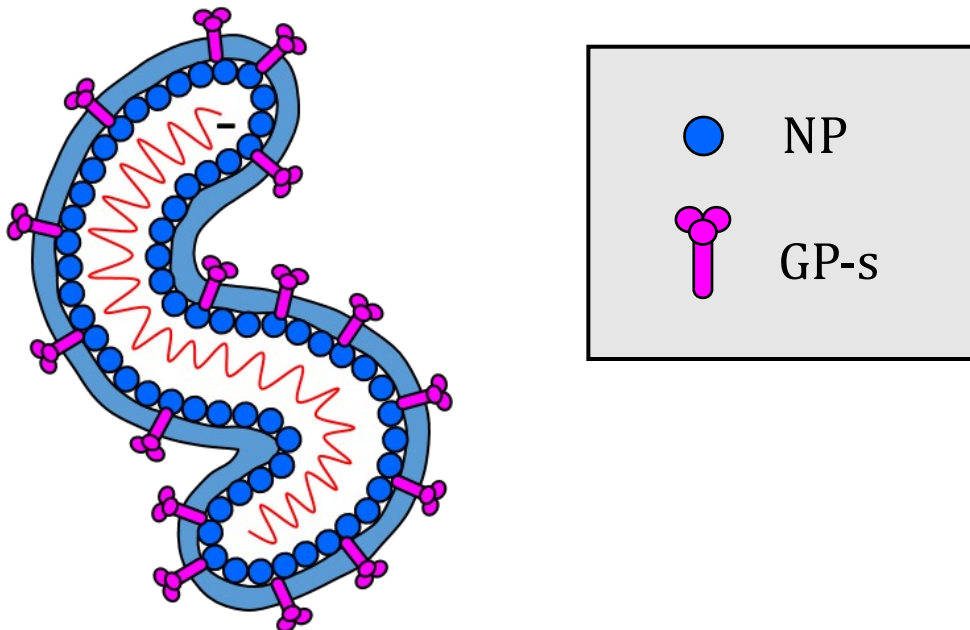
病原性

20-80日の潜伏期間を経て発病する。初期には咳、咽頭痛、倦怠感等の風邪様症状が確認される。また、無症状の場合も多い。通例一週間程で症状は軽快する。

しかし、その7-15日後には約95%の感染者が、突如重度の肺炎を引き起こして死に至る。

長期の潜伏期間のため、感染者の発見前に感染が拡大し、島内でのクラスターが引き起こされた。

Similevirus



分類

Similevirus はラブドウイルス科リッサウイルス属に分類され、エンベロープを持つ(-)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

本種はヒトに広く感染している、ヒトポリオーマウイルス2に近縁のウイルスである。

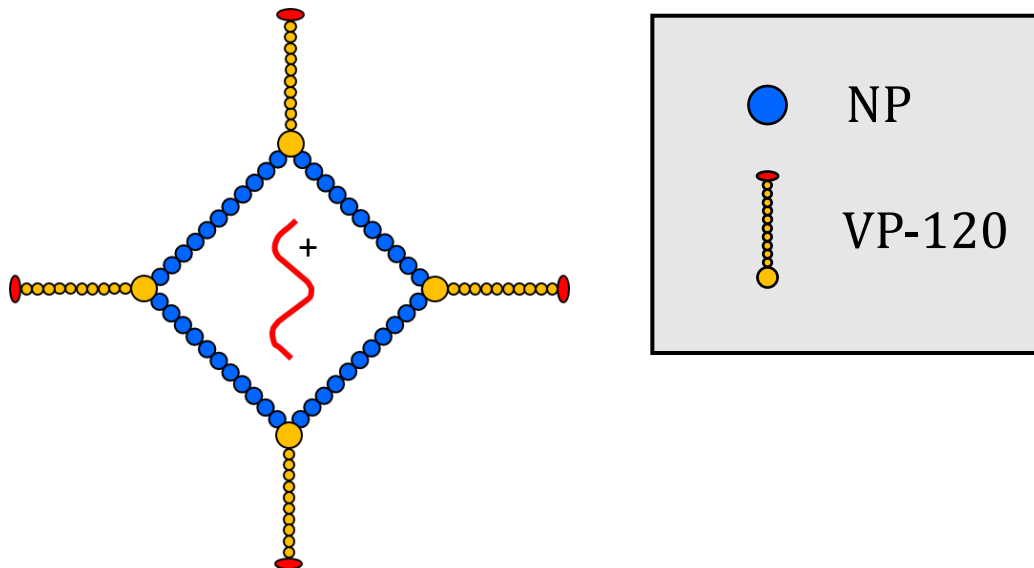
多くのポリオーマ科ウイルスと同様に高度な潜伏感染能を有し、感染後に体内からウイルスを除去することが非常に困難である。

病原性

本種は神経細胞の髄鞘に潜伏感染している。何らかの条件がトリガーになって、活性化し体内各部において脱髄が起こる。これによって感染者には、疲労、脱力感、片麻痺、視力障害、聴力障害、失語、意識障害等の非常に多様な脳機能障害がみられる。

発症のトリガーが未だに不明なことに加え、その多様な症状から、病原体の特定が非常に困難である。このことは安全保障上の大きな懸念となっている。

Angusvirus



分類

Angusvirus はレトロウイルス科デルタレトロウイルス属に分類され、エンベロープを持たない(+)一本鎖RNAウイルスである。

疫学

本種は2013年、南極氷床下にあるボストーク湖の環境中から検出されたゲノム断片をもとに再構成されたウイルスである。

本種の遺伝子は非常に安定であることが判明していて、後期更新世の哺乳類化石から本種のゲノムが確認されている。また、本種がヒトの祖先の神経系発達過程において重要な役割を担った可能性が指摘されている。

病原性

動物実験の結果から、本種に感染した個体において神経幹細胞の自己複製能の以上活性がみられることが分かっている。

本種は哺乳類全般に感染する。ヒトに感染した場合、個体の精神活動の実体である「意識」が著しく変性する危険性が指摘されている。